

【企画もの】

#あの頃ハマった文房具

奈良女子大学 文学部

志村 春香

1. はじめに

ロケット鉛筆、多機能筆箱、練けし…かつて子供たちを虜にした数々の文房具たち。それらの何が当時の子供たちをそれほど夢中にさせたのだろうか。本稿では「#あの頃ハマった文房具」として、子供たちの間でブームを巻き起こした文房具に共通する点を見出し、SNSで発信された声を中心にその文具に関するエピソードと合わせて紹介していく。

2. 懐かし文具あれこれ

この2節ではブームを巻き起こした文具たちを4つの類型にわけ、どのような点が子供たちの心をつかんだのかを仮説立てていきたい。

1) ユーモア文具

ロケット鉛筆	注射器 シャープペン	練けし	クリスタルポケット カラーペン
			

これら4つの文房具は、いずれも遊び心溢れる文具といえよう。芯自体が持ち手になっており芯を押し出して使うという画期的な発想を用いたロケット鉛筆、本物の注射器と見間違えてしまうほど精巧に作られたシャープペンシル、カラフルな見た目で自由に色を組み合わせることのできるカラーペン……いずれの文房具もその見た目や使い方という点で当時それまでにはなかった“新鮮さ”と“ユニークさ”を備えた文具である『ねりけしくん』を販売するヒノデワシ株式会社は当時のブームの背景について、本当にコーラ・フルーツなど

の香りがするののかという好奇心、いろいろな『ねりけしくん』を混ぜることで色や香りをミックスできたり手軽にさまざまな形を作れたりするという楽しさがあったと述べている。これらの文具がブームを巻き起こした背景にはこのような子供の好奇心をくすぐる「遊びの要素」が入っていたことが挙げられると思う。

しかし、実際にロケット鉛筆が子供時代にブームとなっており使用していたという知人に話を聞いたところ、「芯は1回きりなのにもかかわらず、替え芯が売っているということが少なかったから使うにも使えなかった」といった声が聞かれた。また、4のクリスタルポケットカラーペンに関してもSNS上で

あとこれな。クリスタルポケットカラーペン

ふでばこの中でバラバラになってめっちゃイライラした記憶

発信日：2019年9月23日 @pancake_610

といった投稿がみられた。このように、この型の文具は機能性に関しては優れているとはいえない部分があったとしてもそれ以上に「使うことの楽しさ」「持っているだけで周囲の話題になるようなユニークさ」があることがブームの背景にあったと考えられる。

2) 遊べる！文具

キン肉マン消しゴム	ドラクエバトル鉛筆	カーケシゴム
		

これら3つの文房具は遊べる文房具として子供たちの心を鷲掴みにした。1)の類型にも遊びの要素は入っていたものの、それらはあくまで紙に文字を書いたり消したりする「文房具」としての機能を果たすことに重点が置かれたものであった。それに対して、この3つの文房具は“文具＝勉強するために使うもの”という概念を取り払い、「文具×遊び」という新たな構図を成立させている。文房具を遊ぶ道具として使うという新たな概念は、当時の文房具界、そして子供たちの間に新たな風を吹かせたことだろう。ドラクエバトル鉛筆は、90年代の小学生男子を夢中にさせ、当時の鉛筆販売額の約10%を占めるほどの人気を誇っていたという。また、授業中にこの鉛筆で遊ぶ児童が多発し授業の妨げになるとして、持ち込み禁止とした学校もあったようだ。

3) 愛され文具

ジャポニカ学習帳	赤青鉛筆	マジックインキ
		

この3つの文房具は、子供たちから人気を集めブームとなった文具というわけではないが、学校や家で使っていた定番の文房具ということができ、これらを見て懐かしさを感じる人は少なくないだろう。ジャポニカ学習帳に関しては、このデザインをあしらったポーチやクリアファイルなども発売されている。このようなリメイク商品が販売されていることは、ジャポニカ学習帳に愛着を持つ人が多いことの表れといえる。

4) ナイスアイデア文房具

ローラー消しゴム	かおりちゃん	ミルキーペン
		

ローラー消しゴムは、消しカスをローラーで集めて取り除く機能の付いた消しゴムである。「かおりちゃん」は、ヒノデワシ株式会社が販売した匂い付き消しゴムであり、同社はこの「かおりちゃん」のヒットを受け、「香り付き」の「ねりけしくん」を販売するに至った。ミルキーペンは不透明なパステルカラーゲルインキの使用によって黒い紙や写真にも文字や絵を書けることを可能にしたペンだ。これらの商品はいずれも、「消しカスを取り除くためのローラーを付ける」「消しゴムに匂いを付ける」「黒い紙の上でも発色するペンを生み出す」というそれまでになかったアイデアを実現させたアイデア文房具であるといえよう。その“新奇性”が子供たちの心をひきつけ好奇心を掻き立てたと考えられる。

3. 懐かし文具の今

では、ここまで2節で概観してきた文具たちは今どうなっているのだろうか。現在も変わらず人気があり使い続けられているもの、復刻版として人気を集めているもの、機能の進化や更なる工夫がみられるものなど様々だ。

例えば、ロケット鉛筆は現在ではそろばん教室で多く活用されている。また、赤青鉛筆は赤を使用する頻度が高く赤鉛筆の減りが早いという状況を踏まえ、従来の「赤：青＝1：1」の比率から使い手を考慮した「7：3」の比率に変更するという工夫がなされた。そして、2節では紹介しなかったが、80年代から90年代にかけて小学生男子を中心にブームとなった商品として多機能筆箱（ハイテク筆箱）がある。当時の多機能筆箱は、ボタンを押すと鉛筆が起き上がったり、筆箱のあちこちに収納スペースがあったりするものであったが、現代ではLEDライトや電卓、さらには小型扇風機を装着できるUSB差込口が付いた筆箱まで登場し、かなりの進化を遂げている。LEDライトはアームで自由に角度を調整できやすく、商品説明欄には「子供にもっと明るい学習環境を提供」とある。

4. 終わりに

子供たちを虜にした懐かしの文房具の数々を見てきたが、それらの文房具に子供たちの興味を引き、好奇心を掻き立てる機能や工夫が施されているといえると考えられる。

SNS上での#懐かしの〇〇と書かれた投稿や「昭和生まれ必見！懐かしのお菓子」「懐かしのおもちゃ、あなたはいくつ分かる？」といった文句のまとめサイトを目にしたりしたことはないだろうか。近年、過去に自分が慣れ親しんだものについて懐かしみ、それを共有する機会やツールが増えているように思うが、そこには“共感”を求める現代人特有の性質が絡んでいるように感じる。同じものを使用していた、同じ道を通ったという共通点を見出すことに特に嬉しさを感じるのではないだろうか。

*昔なつかしの文具見てたら注射器シャープペンが出てきたんだけどあれめっちゃ可愛い
よね…昔持ってたけどもう無いから今ほしい～！と思って検索したらまだあった！でも
シャープペン使わんからボールペンが良いと思って探したらあった！買うか迷い中…*

発信日：2015年2月7日@2965u4 袋小路 K

そして、このように懐かしさが喚起される投稿やサイトを目にしたことを機に、懐かしいという気持ちが溢れ、再び手にしたいという衝動にかられる人が一定数いるのである。

それを踏まえると、昔流行った文房具を復刻版として発売したり、懐かし文具のパッケージを用いた商品を生み出したりするマーケティングには今後も需要があるといえるだろう。

【参考 URL】

・ <https://hitome.bo/column/article/28027-hitomebo-nerikeshi.html>

「ねりけし」の大流行はなぜ？ 『ねりけしくん』の製造・販売会社を取材

・ <https://www.watch.impress.co.jp/docs/news/1196573.html>

ぺんてる、見る角度で色が変わるラメペン。元祖ミルキーペンも復活 - Impress Watch

・ <https://news.livedoor.com/article/detail/11021973/>

多機能筆箱の進化がスゴすぎる かつて流行した文房具の現在を調査 - ライブドアニュース (最終閲覧：7月24日)

※画像の出所はすべて Amazon

*

『文具に関する論考と企画：奈良女子大学文具ゼミ 2020』

〔2020年度「文化社会学演習」WEB版報告書〕 <https://bungu-narajo.org/>

2020年8月1日 編集・発行 国立大学法人奈良女子大学文学部

人文社会学科文化メディア学コース 小川伸彦研究室編

〒630-8506 奈良市北魚屋西町 E-mail ogawanobuhiko@cc.nara-wu.ac.jp